

平成21年6月期 第3四半期決算短信

平成21年5月8日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 ビーアイジーグループ
 コード番号 9439 URL <http://www.big-group.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 財務課長
 四半期報告書提出予定日 平成21年5月15日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 青山 洋一
 (氏名) 田邊 芳彦

TEL 03-5411-7222

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年6月期第3四半期の連結業績(平成20年7月1日～平成21年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年6月期第3四半期	1,931	△16.0	△100	—	△108	—	△236	—
20年6月期第3四半期	2,299	△36.4	△281	—	△241	—	△447	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年6月期第3四半期	△2,087.81	—
20年6月期第3四半期	△3,510.73	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年6月期第3四半期	2,794	2,000	69.6	17,173.58
20年6月期	3,213	2,231	68.0	19,286.57

(参考) 自己資本 21年6月期第3四半期 1,946百万円 20年6月期 2,185百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年6月期	—	—	—	0.00	0.00
21年6月期	—	—	—	—	—
21年6月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年6月期の連結業績予想(平成20年7月1日～平成21年6月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,500	△16.6	△175	—	△175	—	△315	—	△2,779.71

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細につきましては、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年6月期第3四半期 133,064株 20年6月期 133,064株

② 期末自己株式数 21年6月期第3四半期 19,743株 20年6月期 19,743株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年6月期第3四半期 113,321株 20年6月期第3四半期 127,557株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な信用収縮と金融危機が本格化したことで、円高進行による貿易収支の赤字や大幅な株価の下落となり、企業におきましては設備投資の抑制や生産ラインをストップするなど収益体質の改善策を打ち立てるものの、新卒者の内定取消しなど雇用コスト調整による個人消費の減退などの進行が経営環境の悪循環を招く事態となっております。

このような経済環境のもと、当社グループがテーマとしている「ITとファッション&ビューティー」の「美容室運営事業」と「ITアパレルブランド事業」では、ブランドのコンセプト、ポジションにおける顧客に訴求する為の効率的な広告宣伝をすることで、新規顧客の獲得及びリピート率の向上を図るとともに、引き続き継続的かつ高い成長性・収益性を確保するための新商品の開発・既存商品及びサービスの品質向上や人材育成、業務フローの効率化など経営スキームの確立に重点を置いてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高19億31百万円（前年同期比16.00%減）、営業損失1億0百万円（前年同期は営業損失2億81百万円）、経常損失1億8百万円（前年同期は経常損失2億41百万円）、四半期純損失2億36百万円（前年同期は四半期純損失4億47百万円）となりました。

事業の種類セグメント別の概況は以下のとおりであります。

美容室運営事業につきましては、新規顧客の獲得や既存顧客の来店サイクルの向上に苦戦を強いられ、既存店舗及び新規店舗の売上が伸び悩みましたが、売上原価、販売費及び一般管理費の見直しと削減、サービスの向上、業務フローの効率化など経営の合理化を推し進めてまいりました。以上の結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は14億25百万円、営業利益は45百万円となりました。

ITアパレルブランド事業につきましては、個人消費の減退の影響を受け、リアルショップにおきましては春物商戦は当初見込んでいた売上高を下回ったものの、平成21年3月7日開催の東京ガールズコレクションに出展した効果を活かした卸取引先の新規開拓や不採算店舗の閉鎖など効率的な広告宣伝と収益体制の整備に努めてまいりました。以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は5億6百万円、営業利益は23百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4億19百万円減少し、27億94百万円となりました。その主な要因は、法人税等の支払、長期借入金の返済などによる現金及び預金の減少2億14百万円、のれんの減少97百万円、投資有価証券の減少89百万円、減価償却費46百万円などであります。

これに対して、当第3四半期連結会計期間末における負債の合計は、前連結会計年度末に比べ1億88百万円減少し、7億93百万円となりました。その主な要因は、未払法人税等の減少64百万円、長期借入金の減少45百万円、未払金の減少24百万円、未払費用の減少34百万円などであります。

純資産合計は、四半期純損失2億36百万円などにより20億0百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金等同物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ2億14百万円減少し、4億15百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、使用した資金は87百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失1億56百万円、のれん償却額1億4百万円、法人税等の支払額1億4百万円、減価償却費46百万円などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は28百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出68百万円、投資有価証券の売却による収入25百万円などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は97百万円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出45百万円、子会社の自己株式の取得による支出20百万円などによるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間は、売上高、営業利益、経常利益ともに計画通り推移しており、平成21年2月9日発表の連結業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

たな卸資産の評価方法

たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	415,402	629,505
売掛金	229,785	179,205
商品	50,673	107,763
その他	75,042	100,632
貸倒引当金	△3,826	△1,010
流動資産合計	767,076	1,016,097
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	461,632	407,924
減価償却累計額	△276,975	△252,488
建物及び構築物(純額)	184,657	155,435
その他	96,297	97,525
減価償却累計額	△57,745	△44,719
その他(純額)	38,551	52,806
有形固定資産合計	223,209	208,242
無形固定資産		
のれん	889,136	986,382
その他	12,967	13,018
無形固定資産合計	902,103	999,400
投資その他の資産		
投資有価証券	516,880	606,272
差入保証金	310,437	300,088
その他	197,443	217,309
貸倒引当金	△123,118	△133,946
投資その他の資産合計	901,643	989,723
固定資産合計	2,026,956	2,197,366
資産合計	2,794,033	3,213,464

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,868	62,475
1年内返済予定の長期借入金	60,000	60,000
未払金	139,435	164,198
未払費用	41,789	76,255
未払法人税等	14,142	78,229
ポイント引当金	924	876
その他	30,368	38,628
流動負債合計	387,529	480,663
固定負債		
長期借入金	65,000	110,000
受入保証金	208,840	211,040
その他	132,049	180,249
固定負債合計	405,889	501,289
負債合計	793,419	981,952
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,499,447	2,499,447
資本剰余金	1,469,459	1,469,459
利益剰余金	△1,681,574	△1,444,981
自己株式	△315,465	△315,465
株主資本合計	1,971,867	2,208,461
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△25,740	△22,887
評価・換算差額等合計	△25,740	△22,887
新株予約権	590	456
少数株主持分	53,897	45,481
純資産合計	2,000,614	2,231,511
負債純資産合計	2,794,033	3,213,464

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)
売上高	1,931,571
売上原価	1,338,458
売上総利益	593,113
販売費及び一般管理費	693,280
営業損失(△)	△100,166
営業外収益	
受取利息	1,489
受取保険金	2,074
その他	5,884
営業外収益合計	9,448
営業外費用	
支払利息	2,561
為替差損	1,458
投資事業組合運用損	13,912
営業外費用合計	17,932
経常損失(△)	△108,650
特別損失	
投資有価証券売却損	25,749
店舗閉鎖損失	11,020
減損損失	10,711
その他	128
特別損失合計	47,610
税金等調整前四半期純損失(△)	△156,261
法人税、住民税及び事業税	43,009
法人税等調整額	15,200
法人税等合計	58,209
少数株主利益	22,123
四半期純損失(△)	△236,593

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第3 四半期連結累計期間
(自 平成20年7月1日
至 平成21年3月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△156,261
減価償却費	46,732
のれん償却額	104,135
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,596
減損損失	10,711
受取利息及び受取配当金	△1,489
支払利息	2,561
売上債権の増減額 (△は増加)	△50,579
たな卸資産の増減額 (△は増加)	56,964
仕入債務の増減額 (△は減少)	38,393
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	25,749
店舗閉鎖損失	11,020
投資事業組合運用損益 (△は益)	13,912
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	48
その他	△86,129
小計	18,365
利息及び配当金の受取額	1,489
利息の支払額	△2,561
法人税等の支払額	△104,544
営業活動によるキャッシュ・フロー	△87,250
投資活動によるキャッシュ・フロー	
子会社株式の取得による支出	△510
有形固定資産の取得による支出	△68,505
投資有価証券の売却による収入	25,805
貸付金の回収による収入	7,015
その他	7,329
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,865
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△45,000
子会社の自己株式の取得による支出	△20,000
その他	△32,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△97,500
現金及び現金同等物に係る換算差額	△487
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△214,103
現金及び現金同等物の期首残高	629,505
現金及び現金同等物の四半期末残高	415,402

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

（4）継続企業の前提に関する注記

当社グループは、平成18年6月期から前連結会計年度まで継続して営業損失を計上しており、当第3四半期連結累計期間においても個人消費の減退に伴い100,166千円の営業損失を計上することとなりました。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

しかしながら、当社グループは当該状況をいち早く解消し、収益体質の健全化及び資金繰りの安定化を実現するため、以下の改善策を実行してまいります。

1. 収益基盤の確立

（1）美容室運営事業

既存直営店舗並びにF C店舗におきまして、新規顧客の獲得及びリピート率の向上を図る上で、新商品の開発・既存商品及びサービス品質の向上、人材育成、効率的な広告宣伝による顧客への訴求に努めてまいります。また、新たな施策として、商品の訴求にも注力し、ヘアケア製品の販路拡大や企画宣伝力の強化など、別アプローチからのブランド認知度の向上を図るとともに、引き続きF C店舗の新規出店など、収益基盤の強化に努めてまいります。

（2）ITアパレル事業

平成21年3月7日に開催された東京ガールズコレクションに出展したことで、ブランドの認知度は、より高まっております。これによる効果を活かして、卸売先の新規開拓の継続、低コストで反響の高い雑誌掲載等、費用対効果の徹底的な分析、マーケティングリサーチに基づく新商品の開発とともに収益基盤の拡大に努めてまいります。

2. コスト削減

本社コスト及び上記2事業につきましては、定期的に売上原価、人件費及び物流費等の販売費及び一般管理費を見直すことにより、営業費用の抑制を図ってまいります。

3. 連結キャッシュ・フローの改善

（1）連結納税制度の適用

収益体質の大規模な改善を図るため、平成21年5月7日に代表取締役社長青山洋一から200,000千円の融資を一時的に受けました。これにより、連結子会社である株式会社エム・エイチ・グループの株式を、少数株主から取得し100%子会社化することで、株式会社エム・エイチ・グループから当社への配当金が当社グループ内に留保されることとなります。次期連結会計年度より連結納税制度を適用することにより、当社グループ外への資金流出が軽減される予定です。

（2）キャッシュポジション重視の風土を構築

個人消費の減退につきましては、一層厳しさを増すと予想されます。こうした経営環境に対応するため、キャッシュポジションを重視するよう、経営陣が執行に近い立場で先陣をきり、全従業員が一丸となって乗り越える意識を高めてまいります。

このような取組みを確実に実行していくことで、継続企業の前提に関する疑義は解消されるものと判断しております。

四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日）

	美容室 運営事業 (千円)	I Tアパレル ブランド事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,425,262	506,309	1,931,571	—	1,931,571
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,425,262	506,309	1,931,571	—	1,931,571
営業利益又は営業損失 (△)	45,690	23,558	69,249	(169,416)	△100,166

(注) 1. 事業の区分の方法

事業の区分は、売上集計区分をベースに、事業の種類・性質の類似性を勘案して区分しております。

2. 事業の内容

美容室運営事業：美容室の運営・オリジナル商品の開発及び販売事業等

I Tアパレルブランド事業：アパレルブランドのショップ運営及びインターネット販売等

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日）

本邦以外の地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日）

借入の実行について

平成21年4月24日開催の当社取締役会の決議に基づき、以下のとおり資金の借入を実行いたしました。

借入実行日	平成21年5月7日
資金用途	株式会社エム・エイチ・グループの少数持株分取得
借入先	当社代表取締役社長 青山洋一
借入額	200,000千円
借入利率	2.1%
借入期間	平成21年5月～平成24年8月
担保及び保証	無担保、無保証

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

前第3四半期連結累計期間(平成19年7月1日～平成20年3月31日)

科目	前年同四半期 (平成20年6月期 第3四半期)
	金額(千円)
I 売上高	2,299,488
II 売上原価	1,588,850
売上総利益	710,637
III 販売費及び一般管理費	991,908
営業損失	281,270
IV 営業外収益	45,834
V 営業外費用	6,118
経常損失	241,554
VI 特別利益	47,048
VII 特別損失	161,613
税金等調整前四半期純損失	356,118
税金費用	73,216
少数株主利益	18,482
四半期純損失	447,817